

つなぐ知 PLUS

- 01 [特集]
新学部の気になる中身に迫る
健康情報学部 徹底解説
- 05 [卒業生インタビュー]
かなえびと
公益財団法人日本サッカー協会
元プロフェッショナルレフェリー 松尾 一さん
- 07 大学 NEWS & TOPICS
- 08 研究室オフショット
- 09 大阪電気通信大学高等学校
新校長就任MESSAGE
- 10 高校 NEWS & TOPICS
- 11 CLUB & CIRCLE
- 13 新任教職員のご紹介
2024年度 主な役職者
寄贈・寄付者芳名録・
ご支援への御礼
- 15 WHO'S LAB
PICK UP 研究紹介

HEALTH INFORMATICS

2025.4 START

枠を超える、ワクワクを。

健康情報学部 始動。



つなぐ知 かなえる技

学校法人 大阪電気通信大学

Osaka Electro-Communication University

健康情報学部

(仮称・設置構想中)

徹底解説

健康に生きるために、

情報を活かす。

人の生命を救う現場も、リハビリテーションも、

スポーツも、健康づくりも。

私たちが人の身体を理解し、

よりよく生きる知恵を育むために、

「情報」はなくてはならない存在です。

3つの専攻が、チカラをひとつにして、

新しい価値を次々と生み出しながら、

健やかな未来を切り拓いていく。

2025年4月、健康情報学部が始まります。

HEALTH INFORMATICS

2025.4 START

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

健康情報学部を紐解く 3つのポイント

POINT 01

AIやデータサイエンスの基礎を磨く

急速なスピードで広がる生成AIに対応するには、AI・データサイエンスの基礎について学ぶことが必要です。健康情報学部では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」で認定された本学の実績をもとに新しいカリキュラムを展開。これまでの情報教育のノウハウを活かし、多様な「学びたい」に応えます。

代表的な科目

AI・データサイエンス入門/コンピュータリテラシー1/コンピュータリテラシー2/プログラミング基礎演習/データサイエンス基礎/人工知能



POINT 02

「専攻横断型カリキュラム」と「特修*」

学部共通科目は健康分野と情報分野から、専門分野は3専攻の専門科目の中から自由に選択が可能。他専攻の科目を選択し、自分が学びたい科目を柔軟に組み合わせて学ぶことができるので、多様なスキルの修得が可能です。さらに、「特修」では、専門の深い学びとスキルアップをめざせます。

※特修とは…各専攻の特定の分野を詳しく学ぶコース



POINT 03

eスポーツを科学的・総合的に学べる

世界中で盛り上がっているeスポーツは、今や高校での学びや部活動に取り入れられており、教員にもその知識と指導力が問われる時代になりました。また、理学療法への活用や、ユニバーサルデザインを取り入れたeスポーツなど、多分野で発展しています。健康情報学部では、本学のesports projectなど、これまでのeスポーツに関するノウハウを活かし、eスポーツを実践・体験するだけでなく、指導法や運営まで、eスポーツを科学的に捉えた学びを充実させます。

代表的な科目

eスポーツ科学概論/eスポーツ科学演習/スポーツ方法実習(eスポーツ)



3つの専攻

それぞれの学び

専門性を深めながら、「健康」と「情報」を掛け合わせて可能性を広げていく。3つの専攻は、将来の多様な選択肢につながっています。

理学療法学専攻



ICTを活用し
一人ひとりに最適な
理学療法を

ICTを活用した科学的根拠に基づく効果的な理学療法を提供できる力を育みます。また、スポーツ損傷の予防やリハビリテーションの知識、トレーニング器具を開発できる力も身につけます。

取得できる資格(所定科目の単位修得が必要)

- 理学療法士(国家試験受験資格)*
- ※設置計画中

将来のキャリア

医療機関、スポーツクリニック、高齢者入所・通所施設、障害者福祉施設、国や都道府県・市町村の健康・医療関連部署、訪問事業、教育・研究機関、各種スポーツ業界、企業、大学院進学 など

HOT TOPICS

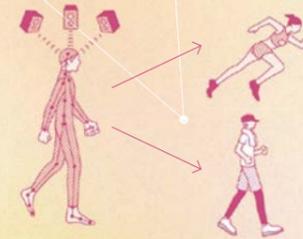
少人数指導で、
国家試験も研究も徹底サポート

理学療法士
(国家資格)
合格率 **100%**

2021年度、2022年度、2023年度
医療健康科学部 理学療法学科実績

ADVANCED

スポーツリハビリテーション特修
スポーツにおける健康支援を実践できるICTに強い理学療法士をめざす



医療工学専攻



医療×情報・工学を駆使し
医療や健康社会に貢献する

医学、臨床医工学、情報工学を学び、AI技術やICTに強い臨床工学技士として、高度医療・チーム医療で活躍できる力を育みます。また、健康医療機器を扱うエンジニアとして、医療技術の安全と品質向上に貢献するスキルが身につきます。

取得できる資格(所定科目の単位修得が必要)

- 臨床工学技士(国家試験受験資格)*^{※1}
- 高等学校教諭一種免許状(数学/工業)*^{※2}
- 中学校教諭一種免許状(数学)*^{※2} ほか

※1 構想中
※1 「臨床工学技士養成課程」と「教職課程」とを併修することは難しい場合があります

※2 申請中
ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期などが変更になる可能性があります

将来のキャリア

国立病院、大学附属病院、総合病院、クリニック、医療関連の総合商社、医療機器メーカー、IT企業、大学院進学 など

HOT TOPICS

高度なスキルを備えた技術者を育成!
社会から高い評価

臨床工学技士
(国家資格)
合格率 **90.5%**

2023年度医療健康科学部 医療科学科実績

ADVANCED

AI医療特修

AI技術の医療応用、医療×ゲームなど、デジタルヘルスケア分野を発展させるスペシャリストをめざす



他専攻の科目も
自由に選べる
専攻横断型
カリキュラム

スポーツ科学専攻



スポーツ×情報の専門性を磨き
人と社会を元気にする

スポーツ科学に加え、健康科学や医学を学びます。健康やスポーツにICTを活かし、子どもや高齢者からアスリートまで人々の心と身体を支えるスキルを身につけます。

取得できる資格(所定科目の単位修得が必要)

- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)*^{※1}
- 中学校教諭一種免許状(保健体育)*^{※1}
- スポーツ・レクリエーション指導者(公益財団法人日本レクリエーション協会認定資格)*^{※2}
- 健康運動実践指導者(公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定資格) ほか*^{※3}

※1 申請中
ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期などが変更になる可能性があります

※2 構想中

※3 受験資格を取得できる資格(所定科目の単位取得が必要)

将来のキャリア

保健体育科教員、スポーツインストラクター、健康増進施設や社会体育関連団体の指導者、スポーツコーチ、高齢者・障害者施設、市町村の健康・医療・スポーツ関連部署、企業、大学院進学 など

HOT TOPICS

最新のソフトや機材を用いて
データの計測・活用方法を
実践的に学ぶ



スポーツ情報特修

ICTを活用して運動・スポーツのエビデンスを生み出すことができるプロをめざす

ADVANCED



かなえびと

KANAEBITO

VOL. 01

自らの力で人生を切り拓いていける教育を大切にしてきた大阪電気通信大学。ここから広がる世界と可能性は果てしない。卒業生が気づかせてくれる、未来は自由だと。

公益財団法人日本サッカー協会
元プロフェッショナルレフェリー

松尾 一さん
MATSUO Hajime

PROFILE

兵庫県尼崎市出身。1972年9月26日生まれ。大阪電気通信大学 工学部 経営工学科卒。1997年に1級審判員資格を取得し、2008年よりプロフェッショナルレフェリーに。Jリーグ通算542試合。



いろいろな悩みや壁がありました、自分に嘘をつかず素直になることで充実したレフェリー人生を歩めました。



レフェリーを続けるための人生の選択。

日本にわずか19人しかいないサッカーのプロフェッショナルレフェリー。そのひとりとして長らく国内外で活躍した松尾さんは、2023年12月で引退した。「表に出るのは誤審の問題ばかりですが、選手にありがとうと言われたり、試合を通じて心を通わせ、ともに試合をつくるのがやりがいでした」。試合はレフェリーがいないと成り立たない。スポットが当たるのはいつも選手たち。それでも松尾さんは「レフェリー

世界で活躍するプロのレフェリーへ。

手に職をめざした進学から

本当にやりたいことを求めて。

66

を続けるための人生」を歩んできた。レフェリー人生の始まりは、大阪電気通信大学在学中のこと。ボランティアとして小学生の試合で初めて笛を吹いた。



父親が技術職をしていた影響もあり、パソコンに興味があった松尾さんは大阪電気通信大学に進学したが、学生時代は勉強よりもサッカーだった。「手に職をつけよう」と進学したのに、2年生でサッカー部に入学してからはサッカー漬けの毎日。関西学生サッカーリーグの2部に昇格し、おそらく過去一番強かった時期だったと思います。就職に悩んでいた頃、当時のサッカー部の顧問だった橋本不二雄先生がレフェリーをしており、「仕事をしながらレフェリーを続けてみてはどうか？」と言われた。それをきっかけに、卒業後は一般企業に就職し、平日は働いて休日は審判をするという二足のわらじを履く生活に。「じわじわと大きい大会に呼ばれて、自分の中でも審判として生きていく覚悟ができてきました」。Jリーグを担当するようになった頃、レフェリーがプロ化されるなど環境も変化。本格的にレフェリーの道へ進むためにサッカースクールコーチに転職。さらに国際審判として海外に派遣されるようになるも、「保育専門学校に通い、ずっと興味があった幼稚園の先生になりました」。その後3年間は先生と

レフェリーを両立していたが、将来について考えた末、レフェリー一本で食べていくことを決意。35歳でプロ審判員となった。

ちゃんと悩む。
だから次へ進める。

「何回も泣きましたし、笑いました」。ミスがあればさまざまな媒体で叩かれ、SNSで炎上することもある。プロの試合だけでも500試合以上で笛を吹いてきた松尾さんは何度も落ち込んできた。「この仕事に向いているのか、と自問自答を繰り返してきました。笛を吹いて反則をとって文句を言われて…という表面的なことよりも、自分と向き合って悩むことの方が多かったと思います」。ミスをしてすぐに復帰できることもあるし、何日も引きずるときもある。次の試合でうまくいけば気分は晴れる。大切なのは、自分の気持ちに嘘をつかないこと。「プロの審判は鋼のメンタルが良いと言われますが、私は自分らしくいようと。試合中も選手の表情や動作を見て積極的に声をかけ、試合



Photo by J.LEAGUE/Getty Images

のコントロールに困ったら選手側に助けてほしいとお願いすることもありました。目線でメッセージを送るなど、みんなで一体となった試合はとても達成感がありました。30年間続けてきたレフェリーを辞める時に、「大事なものを奪われて頭が真っ白になるのでは」と思った。キャリアの終了の笛は1回しか吹けない。吹くタイミングをずっと迷っていた。最後の試合を終えた今だから言えるのは、「思い出は変わる」ということ。辛いこともあったし、楽しいこともあった。そのすべてがあったから今の自分がいる。「悩むのは悪いことではない。それがわかるとちゃんと悩めるようになった」。どんな悩みもきっと、時間が経てばその価値に気づくことができる。引退後は、レフェリーの育成にかかわりながら、メンタルで悩んだ経験を活かして公認心理師としての活動も視野に入れている。人生という名の試合はまだ続く。松尾さんは社会や世間の声に惑わされず、いつも自分に素直に生きてきた。これからの人生も変わらず歩んでいく。大好きなサッカーとともに。

01 工学部 建築学科と 工学研究科 建築学コースが 合同制作展2023「渦」を開催

建築学科と工学研究科建築学コースの卒業設計・研究を発表する合同制作展2023「渦」を1月30日(火)から4日間、大阪市中央公会堂で開催しました。最終日の講評会では、4月開設の建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻の教員らが審査を行い、大学院生には外部の専門家に講評いただくなど、非常に有意義な時間となりました。また、今年は学部・学科の枠を超えて、電子機械工学科から国際競技大会サイバソンの「ロボティック電動車いす」や、総合情報学部から東京ゲームショウ2023に出展した学生ゲーム作品のパネル展示も実施。高校生をはじめ、企業の方など多くの方々に足を運んでいただきました。



02 総合情報学部の 卒業研究・卒業制作展 「なわてん」を開催

「なわてん」は、今年で21回目の開催となり、映像作品、3DCGアニメーション、VR・AR、ゲームアプリ、音響作品、イラスト、3D造形、プログラミング、ロボットなど幅広い成果を発表しました。なわてんグランプリでは、司会を本学公式VTuberの夢見メイトや或路レイが行い、作品総数212点の中から「靴型トラッカーを用いたゲーム制作とその手順の確立」や「VR能体験システムの改善」「現実世界を飛び出したプログラムアニメーションミュージアム」など22作品が受賞しました。また、今年度は有志による学内展示も寝屋川キャンパスで行われ、多くの方が来場し、実際に作品を体験していただきました。



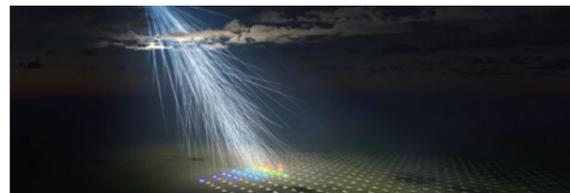
03 2023年度 学位授与式

3月23日(土)、2023年度学位授与式を四條畷キャンパスのコナミホールで行い、1,223人(学士:1,139人、修士:79人、博士:5人)の学生に学位記を授与しました。スーツや晴れ姿に身を包んだ卒業生たちは、晴れやかな表情で学び舎を巣立っていきました。
※大阪電気通信大学後援会より、フォトスポットとして看板、AR看板を寄付いただきました。



04 多田裕一郎准教授らの 国際共同研究グループが テレスコープアレイ実験史上最大の エネルギーをもつ宇宙線を検出

工学部 基礎理工学科 数理学専攻 多田裕一郎准教授らの国際共同研究グループがアメリカ ユタ州で稼働中の最高エネルギー宇宙線観測実験「テレスコープアレイ実験」で、極めて高いエネルギーをもつ宇宙線の検出に成功しました。本研究結果は国際学術誌Scienceに掲載されました。



最高エネルギー宇宙線によって引き起こされた空気シャワー現象のイメージ。宇宙線の到来方向や位置、TA実験の検出器の配置と信号の到来時刻を表した色は、実際のデータに基づいて再現した(画像提供:大阪公立大学/京都大学L-INSIGHT/Ryuunosuke Takeshige)。

その他の新着情報は
こちらから



研究室 [オブ] ショット

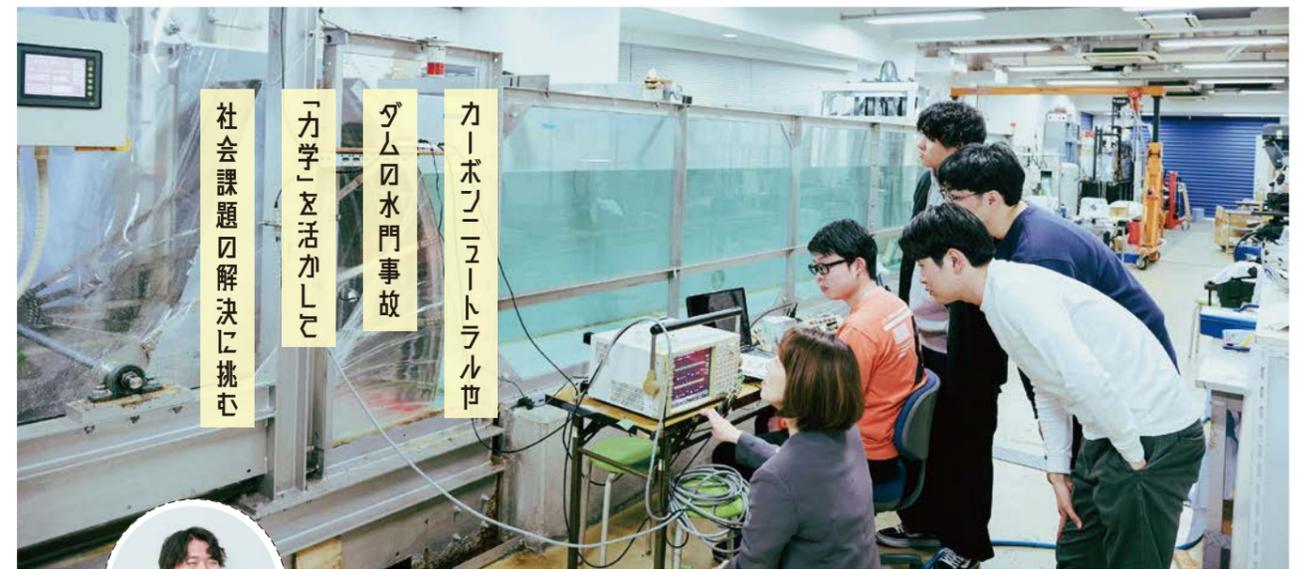
大阪電気通信大学には今日も、楽しみながら研究に打ち込む教員や学生たちの姿があります。
その活動内容とともに、研究室の普段の様子や、学生たちの素顔をお届けします。



工学部 機械工学科 教授
大学院 工学研究科
工学専攻 制御機械工学コース 教授
阿南 景子 | ANAMI Keiko

工学部 機械工学科 機械力学研究室

カーボンニュートラルを見据えて空調用圧縮機の高性能化を進める研究や、かつてダムの水門崩壊事故につながった、流れにかかわる振動現象の研究など、力学を活かして社会課題の解決に取り組んでいます。



「力学」を活かして
社会課題の解決に挑む
カーボンニュートラル世
ダムの水門事故



4年 桐生 瑛樹さん

改善のおかげで効率がアップ!
成果を実感しながら進んでいる
計測から分析・改善まで自分たちで行うので、「前回より効率がよくなった!」という成果を実感しながら研究を進めることができます。



4年 波左間 大樹さん

大きなやりがいとともに、
自主性を育める場所
「もっと実験したい!」という気持ちで毎日研究室に通っています。実験機の設計から取り組むことができ、すごくやりがいを感じています。

※学年は、2024年3月時点のものです。

はじめてのことも「まずやってみる!」をモットーに、設計や加工も自分たちで進めます。



摩擦を減らして、圧縮機の省エネ化や長寿命化に貢献!メーカーとの共同研究も。

ゼミでは毎週発表があり、みんなで成果を共有!お互いの研究内容も貴重な学びに。

試作と実験を繰り返し、結果を分析してまた考えて改善につなげます。

新校長 就任 MESSAGE

自ら学ぶ力を引き出すために 教育には何ができるか

私は、高校教員として長い間たくさんの生徒たちを育ててきました。その経験から感じるのは、生徒たちの持っている伸びしろの大きさです。われわれが教えたことをきっかけに生徒たちが自分なりに興味を広げ、教えたこと以上の成果を上げる姿に接するたび、生徒の持っている力を引き出す教育の場としての可能性と責任を感じてきました。

高校の3年間で最も重要なことは、自ら学ぶ力を伸ばすことです。その基盤となる学力を十分に伸ばしてあげることが、私たちが果たさなければならない重要な仕事のひとつです。さらに、自ら学ぶ力を大きく育てるのに必要なのが、何のために学ぶのかを感じてもらおうことだと思っています。

以前に勤務していた工業高校では、生徒たち自身でSDGsの実現につながる製品・商品を企画しモノづくりを体験する取り組みを、いくつかの大学に協力していただきながら実施しました。自分の学びと社会とが繋がっていることを肌で感じ、いきいきと取り組んでいた生徒たちの顔が印象に残っています。

さまざまな体験の中で将来の目標が見つかる 未来のためのチャレンジの場にしたい

デジタル教育の強みに加え 「実感」と「自信」を

本校は高大連携に熱心に取り組み、成果を上げています。大学との密接な連携のもとIT・デジタルを活用した先端的な教育を行い、これからの社会が必要とする能力の基礎を育ててきた強みを、今後もさらに高めていくつもりです。

基礎学力やITスキルをベースとしてしっかり養いながら、学びの目的意識を高めたり実践的な能力を身につけたりしていくような場づくりにも挑戦したいと思っています。企業と共同して企業内や社会の課題を解決するPBL(Project Based Learning)の取り組み、海外の人たちと積極的に触れ合えるような交流機会の創造など、やりたいことはたくさんあります。

さまざまなチャレンジの中で、生徒たちの世界は広がります。「社会と自分とはつながっているんだ」と実感するでしょうし、「自分にこんなことができた」と自信を持つこともできるでしょう。そしてそれが、好きなことを見つけることにつながれば言うことはありません。毎日が自ら学ぶための原動力になるような学校をめざし、先生方と一丸となって力を尽くしたいと思っています。

楽しみにしています

たくさん刺激を受けるのを

生徒たち、先生方から



PROFILE

麻野 克己 | ASANO Katsumi

2024年4月、大阪電気通信大学高等学校校長に就任。1987年大阪電気通信大学工学部 通信工学科卒業後、大阪府立高等学校教諭に。電気科の科目を中心に教鞭をとる。2013年大阪府教員委員会を経て、2017年から校長職。

NEWS & TOPICS

HIGH SCHOOL

01 大阪府私学高等学校卓球大会で 準優勝

大阪府私学高等学校卓球大会で、卓球部が2年連続準優勝しました。前年度準優勝のため第2シードで登場し決勝戦までストレート勝ちで順調に勝ち上がりました。決勝戦ではフルセットまでもつれ込むも惜しくも1-3で優勝には届きませんでしたが、2年連続準優勝という素晴らしい成績を残しました。卓球部は10大会連続で近畿大会に出場するなど、実力を高め続けています。引き続き応援をよろしくお願いいたします。



02 総合体育大会 男子個人優勝! 新人柔道大会団体の部 男女ともに近畿大会出場!

第78回大阪府高等学校総合体育大会柔道の部、男子100kg級で森田勇大選手が優勝しました。昨年度より女子選手と女性指導者が加わり、第73回大阪高等学校新人柔道大会団体の部では男女ともに優秀校に選ばれ近畿大会に出場。また、女子70kg級中川実咲選手は第5位となり個人で近畿大会出場を果たしました。顧問の松本光晴先生は「柔道部を強化して7年。男女お互いに励まし合い、大会結果に良い刺激を受けチャンスをつかむことができました。来年度はさらに良い結果を残せるよう指導していきます」と語りました。今後の活躍から目が離せません。



03 写真部が第24回植田正治 写真美術館フォトコンテストで 秀作賞を受賞

11月26日(日)、植田正治写真美術館フォトコンテストの表彰式が行われ、18歳以下の部で198点の中から写真部の湯川巧翔さんが秀作賞に選ばれました。受賞した作品は写真部の合宿中に訪れた鳥取砂丘での一場面で、構図や配色が高く評価されました。



04 2023年度 卒業式

2月17日(土)、2023年度卒業式を大阪電気通信大学高等学校の体育館で行い、普通科・工学科合わせて374人が卒業しました。卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。本校で学んだことを活かし、今後さらにご活躍されることを期待しています。



05 2024年度 入学式

4月6日(土)、2024年度入学式を大阪電気通信大学高等学校の体育館で行い、普通科・工学科合わせて333人が入学しました。3年間の高校生活でさまざまな経験をし、たくましく成長されることと思います。皆さんが充実した、有意義な高校生活を過ごされるよう願っています。



その他の新着情報は
こちらから



CLUB & CIRCLE



UNIVERSITY

ハンドボール部



DATA | 部員 | 16人
| 活動日 | 週2回 月曜日・水曜日、長期休暇

日頃のコミュニケーションから チームワークを高め、3部リーグに昇格

部員の大半は、中学校や高校でハンドボールを経験してきたメンバーです。しかし、経験者だけが活躍するのではなく、初心者の人も含めてみんなで一緒に成長できるように、一人ひとりが個性を発揮できるフランクで楽しいチームづくりをめざしています。普段の練習でもアップの時からしっかり声を出したり、ひとつのプレーについてみんなで話し合ったり、試合でもお互いに声をかけあったり。練習以外にも食事会などで集まることでコミュニケーションが活発になりました。さらに、フィジカルの面も鍛えるために、走り込みなどのメニューも組み込んで大会に臨みました。チームワークと一人ひとりの基礎体力が向上したことでミスが減って、お互いの連携もスムーズになり、2023年秋の4部リーグの大会で1位の成績を収め、3部リーグへの昇格を果たすことができました。



主将 信野 堅心さん
総合情報学部 デジタルゲーム学科 3年

みんなが入りたいと思える
楽しいチームをめざして

“空中の格闘技”と呼ばれるハンドボール。スピード感あふれる試合展開に惹かれ、小中高と競技経験を積んできました。そして今、主将として一人ひとりが楽しみながら強みを発揮できる練習を心がけた結果、みんなの力で3部リーグ昇格を勝ち取ることができました。

ELECTRONICS CLUB



HIGH SCHOOL

電子工作部

| WEB |



DATA | 部員 | 14人
| 活動日 | 水曜・木曜・金曜・授業のある土曜 放課後から18時まで

「アイデアをカタチに」 自分がやりたいことが自由にできるクラブ

電子回路やプログラムの基礎技術を学びながら、マイコンを使い「アイデアをカタチにする」をモットーに、さまざまなモノづくりを行っています。昨年10月には、22歳以下を対象とした「Civitech Challenge Cup U-22 2023(以下CCC U-22)」に出場し、「ゴミ箱は待つのを止めた」というテーマで、清掃員の方の負担を軽くするため、ゴミ箱たちが1か所に集まるように自走するプログラムを提案しました。その結果、ファイナリスト8組に選出され、最終審査会で企業賞と特別賞を受賞。そして今年3月、CCC U-22台湾に招待され、1年生2人が参加し、英語でプレゼンテーションを行いました。顧問の仁木智晶先生は「英語で堂々と発表する姿に部員の成長を感じました。また、CCC U-22で視聴者投票1位に選ばれ2つの賞を受賞したことは、作品づくりのモチベーションアップにつながったと思います」と確かな手応えを口にし、参加した部員は「緊張しましたが、たくさん練習したので間違わずに発表することができました」「台湾はIT関連について日本よりも意識が高いと感じました」とそれぞれが大会を振り返りました。今後の活躍が楽しみです！



部長 山下 翠さん
普通科 メディア情報コース 2年

つくりたいモノが自由につくれる！
メンバーが集まるとすごいことができる！

学年の枠を超えた仲の良さでいつも楽しく活動しています。これまでにつくり上げた作品は、文化祭をはじめとしたイベントで展示し、自分たちがおもしろいと思う「モノづくり」を自由な発想で行っています。目標は、地上最大のDIY展示発表会「Maker Faire」に今年も出展することです。興味がある方はぜひ電子工作部に来てください。一緒に楽しく「モノづくり」をしましょう！



HANDBALL CLUB

新任教職員のご紹介

2024年4月1日付

大学教員



2024年4月1日付

大学教員



2024年4月1日付

大学教員



2024年4月1日付

大学教員



2024年4月1日付

高等学校



2024年度 主な役職者

理事・監事

理事長 大石 利光(元コナミスポーツ株式会社 代表取締役執行役員社長)

理事 塩田 邦成(大学学長) 渡部 隆志(副学長) 加藤 好文(京阪ホールディングス 代表取締役会長 CEO)
麻野 克己(高等学校校長) 赤滝 久美(医療健康科学部理学療法学科 教授) 観野 福太郎(NPOビジネス・サポート 理事長)
田尻 実(法人事務局長、広報部長) 谷 嘉久(経営戦略室長、財務部長) 都倉 信樹(元大阪電気通信大学 学長)
寺西 正光(大学事務局長) 横山 元一(大阪電気通信大学高等学校同窓会 会長) 山口 重之(元京都工芸繊維大学 副学長)
兼宗 進(副学長、工学部長) 大下 真二郎(一般社団法人大阪電気通信大学友電会 企画・運営部会 部会長)

監事 木村 安壽(木村公認会計士事務所 所長) 松宮 徹(元新日本製鐵 フェロー)

大学

学長	塩田 邦成	学務部事務部長	不破 信勝
副学長(寝屋川、教学、情報教育・情報化 担当)	兼宗 進	教育開発推進センター長	早坂 昇
副学長(四條畷、国際分野 担当)	渡部 隆志	総合学生支援センター長	平沼 博将
学長補佐	松浦 秀治	実験センター長	溝井 浩
学長企画室長	新川 拓也	就職部長	土田 修
工学部長	兼宗 進	入試部長	中田 亮生
情報通信工学部長	小森 政嗣	入試部副部長	中井 聖
建築・デザイン学部長	上善 恒雄	図書館長	来海 暁
医療健康科学部長	太田 眺美	国際交流センター長	渡部 隆志
総合情報学部長	大西 克彦	国際交流センター副センター長	金村 仁
共通教育機構長	原田 融	メディアコミュニケーションセンター長	石塚 文晴
工学研究科長	榎本 博行	メディアコミュニケーションセンター副センター長	中村 英夫
医療福祉工学研究科長	藤川 智彦	エレクトロニクス基礎研究所長	湯口 宣明
総合情報学研究科長	魚井 宏高	メカトロニクス基礎研究所長	入部 正継
大学事務局長	寺西 正光	情報学研究科長	越後 富夫
学事部長	岩村 真吾	先端マルチメディア合同研究所長	寺山 直哉
四條畷事務部長	渡邊 堅一	研究連携推進センター長	阿南 景子
学務部長	溝井 浩	地域連携・リカレント推進センター長	伊藤 義道
学務部副部長	早坂 昇	ICT社会教育センター長代理	兼宗 進

高等学校

校長	麻野 克己
教頭	松原 健太郎
教頭	唐原 太
事務長	小谷 高秋
教務部長	内田 悟
生活指導部長	坂本 豊
進路指導部長	岡村 穂高
入試部長	白石 新
工学科長	仁木 智晶

法人

法人事務局長	田尻 実
経営戦略室長	谷 嘉久
総務部長	早野 秀樹
財務部長	谷 嘉久
広報部長	田尻 実

※2024年4月1日現在

四條畷キャンパス、キャンパスプラザ寄贈式について

大阪電気通信大学後援会から、四條畷キャンパス2号館キャンパスプラザの改修工事及び什器一式を寄贈いただきました。それに伴い、3月23日(土)寄贈式が執り行われました。大石理事長、塩田学長らと、後援会から石橋会長、十河・前田両副会長が出席し、石橋会長から大石理事長へ目録が手渡されました。石橋会長は「春から来る学生たちが思い思いの時間を過ごしてくれたら嬉しいです」と話し、大石理事長は「学生の憩いの場を提供していただき感謝しております。本学の方針のひとつである『人間力を磨く』という意味においてうまく活用してくれると思います」と感謝の意を伝え、塩田学長は「イベントができそうな空間ですので、学生たちが課外活動で活用してくれることを期待しています」と述べました。



高校大会議室の内装リニューアルと什器の寄付について

大阪電気通信大学高等学校では、2023年度より定期試験前に大会議室を自習室として生徒に開放しています。それに伴い、大阪電気通信大学高等学校後援会からの全面的な支援で、大会議室の内装リニューアルと机・椅子の刷新を行いました。この取り組みにより、生徒の学習意欲向上につながっています。



一般・継続募金寄付者芳名録(敬称略・五十音順)

一般・継続募金は、皆さまからの温かいご支援を受け、2023年9月1日から2024年3月31日までの寄付件数は104件、寄付総額は4,907,009円となりました。皆さまの温かいご理解とご協力に感謝し、厚く御礼を申し上げます。一般・継続募金へご寄付いただいた皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。ご芳名は、2023年9月1日から2024年3月31日までにご寄付をいただきました方(個人・団体)を掲載しました。ご支援、誠にありがとうございました。

個人	東 尚子	茨木 陽光	伊與田 功	岩野 敬一	岩村 真吾	植田 一正
	王 少鋒	大平 富義	上川 直紀	川口 雅之	北田 由博	木原 満
	木村 安寿	合田 昌和	兒玉 隆洋	塩田 邦成	柴垣 佳明	菅井 良亮
	高畑 顯信	寺西 正光	中村 文俊	西端 修	林 秋光	早野 秀樹
	藤田 玄	伏本 和人	不破 信勝	松浦 秀治	松原 健太郎	萬代 武史
	宮崎 智彦	夕永 智子	吉川 茂			

団体 大阪電気通信大学高等学校後援会

- ・ご芳名は、五十音順に記載いたしました。
- ・お名前公表を希望されない方につきましては掲載しておりません。
- ・お気づきの点がございましたら、恐れ入りますが、問い合わせ先までご連絡いただけますようお願いいたします。

寄付金に関するお問い合わせ先

法人事務局 募金推進室

Tel.072-824-1131(代) Fax.072-824-1141
E-mail bokin@osakac.ac.jp

学園報

「つなぐPLUS」VOL.346

アンケートのお願い

皆さまの声を紙面に反映すべく、学園報のアンケートを行っております。数分程度でご回答いただけるアンケートになっておりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

[回答期限]
2024年6月30日(日)

[回答先]
<https://forms.gle/mi4jMnkHSh1KW9A1A>





海老原 聡 | EBIHARA Satoshi

所属部署 工学部 電気電子工学科 教授
大学院 工学研究科 工学専攻
電子通信工学コース 教授

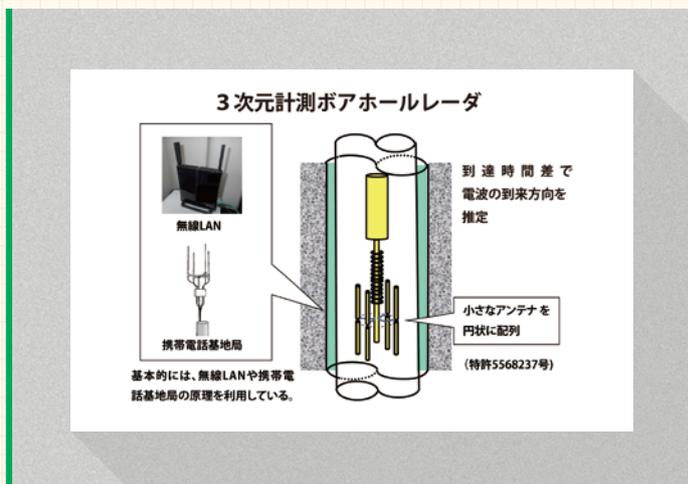
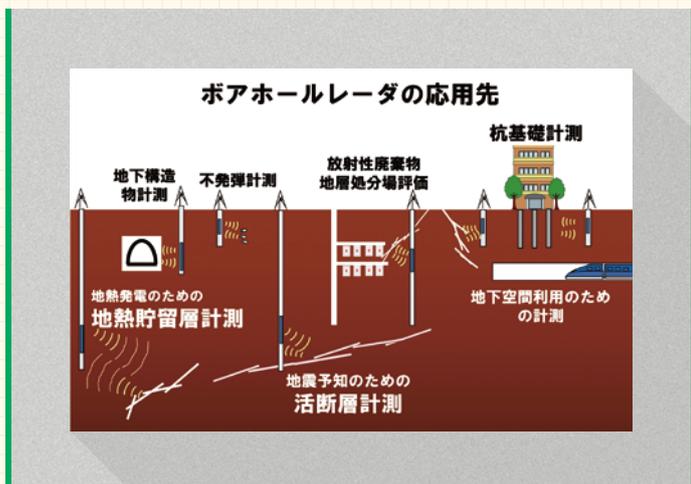
研究テーマ 電波で地面の中をのぞく電波計測工学の研究
学位など 東北大学 博士(工学)

海老原教授のPRIVATE LIFE

クラシック音楽、中でもオペラ歌曲を好んで聴いています。きっかけは映画『アマデウス』だったため、「魔笛」は特別にお気に入りです。健康維持のために、気が向いた時はキャンパスの周囲をジョギングしています。

マグマ・不発弾・断層・基礎杭 … 地中の物体をボアホールレーダで計測する

私たちの足元の下にある地中の世界。それは地上の世界と違って簡単に見ることはできません。しかし、安全に建造物を建てるためには、地中の状態を知る必要があります。海老原教授は、電波を使って地中を3次元計測する「指向性ボアホールレーダ」の学術研究において日本唯一の研究者。最新研究では、高精度な地中観測を実現する新しい技術を開発しています。

距離も3次元位置も推定！
指向性ボアホールレーダが活躍

ボアホールレーダを日本に初めて持ち込んだのは、海老原教授の学生時代の指導教員でした。これは、坑井に入れたダイポールアンテナから電波を送信し、目標物体から反射して戻ってきた電波の伝搬時間から距離を算出する仕組みです。課題は「アンテナと目標物体との距離」はわかっても「3次元的位置がわからない(無指向性)」ということでした。海老原教授は、複数のダイポールアンテナを円状に並べ、各アンテナの受信時間差から3次元位置を推定する指向性ボアホールレーダを開発。この技術は現在、建築物の基礎杭の測定ほか、さまざまな地質調査の現場でReflexTracker®の製品名で使われています。

最新研究では地中物体の位置だけでなく
形もキャッチ！

海老原研究室では、ボアホールレーダの可能性をさらに広げる研究成果を発表しています。たとえば、垂直偏波を送受信するダイポールアンテナに加え、水平偏波を送受信するループアンテナを追加。新たなアンテナが導入されたことで、目標物体の形状を推定することも可能になりました。本学発となるこの成果は、ひとつの坑井で3次元の位置関係と形状を同時に計測できる可能性を示すもので、日本が開発した、国際的にも注目される技術となっています。形状を捉えることは、経年劣化や地震による基礎杭の変形、断層や亀裂の透水性を測ることであり、安全性を確保する上で重要な技術なのです。

THE
POTENTIAL

この研究から広がる
こんな未来

地熱発電の源「地熱貯留層」を地中計測技術で探索！

地熱発電はCO₂の排出量がほぼゼロの「再生可能エネルギー」。開発の第一歩は、蒸気や熱水が溜まる「地熱貯留層」の探索です。海老原研究室では、JOGMECから三井金属資源開発株式会社へ委託された研究調査プロジェクトに協力し、ボアホールレーダが地熱探査にどのように貢献できるかの調査研究にも取り組みました。世界的にも地熱資源の豊富な日本。温泉文化との共存ができれば、エネルギーの未来がさらに明るくなりそうです。